

■一遍(智真・遊行上人)

僧。時宗の開祖。寺を持たず、生涯踊念仏によって布教行脚をした。

いっぺん

・ ・ ・ ・ ・ 1239 = 伊予国の豪族河野道広の子に生まれる。河野氏は瀬戸内海の水軍を率いる有力な武士であったが、承久の乱で京方について没落。

北条泰時没・1242 = 3歳 :

幼いときに寺に入り、

北条時頼執権1246 = 7歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1248 = **9歳** : 母が亡くなり、無常の理を悟って出家。

・ ・ ・ ・ ・ 1251 = 12歳 : 故郷伊予国道後を出発、

皇族將軍始・1252 = 13歳 : 大宰府に行き、法然の弟子として知られた聖達に師事して、仏教の学問につとめた。

北条時頼出家1256 = 17歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1257 = **18歳** :

さらに、肥前国清水の華台上人のもとで修行したが、

北条時頼没・1263 = 24歳 : 父の死を聞いて伊予に帰り、還俗。

將軍入替・ ・ 1266 = **27歳** :

一族の所領争いなどが原因で再び出家。

北条時宗執権1268 = 29歳 :

九州の聖達を訪ねなどするうちに、

日蓮佐渡配流1271 = 32歳 : *信濃国の善光寺に参詣したときに、独自の阿弥陀信仰を感得して“二河白道図”を写した。伊予に帰ると、窪寺(愛媛県松山市)の草庵で念仏を修し、念仏に対する信仰を深めて“十一不二頌”を作る。

・ ・ ・ ・ ・ 1273 = 34歳 : 菅生の岩屋に参籠して遁世の志を祈り、

元寇文永の役1274 = 35歳 : *妻と娘に従者1人を同行して遊行の旅に出、四天王寺で参籠し高野山参詣後、熊野に赴き夢告を得た(この時名を一遍と改め、のちに時宗開宗の時とされる)。同行者を放ち捨て、唯一人で名号の札をくばり賦算を続ける旅に出、京から西海道に向かい、

元使斬殺・ ・ 1275 = **36歳** : 故郷に戻って、伊予国中を遊行後、文永の役の後遺症に苦しむ九州へ向かい、

・ ・ ・ ・ ・ 1276 = 37歳 : 大宰府の師聖達を訪ね、筑前国から大隈の正八幡宮に参詣、食事にもことかく苦行をしながら九州を遊行するうち、豊後守護大友頼泰が帰依して逗留すると、他阿ら数人が入門し、以後時衆を連れて、

元が交易許可1278 = 39歳 : 一時帰郷、安芸厳島に参詣後、備前国の布教で一気に300人近くの出家者を得、

無学祖元来日1279 = 40歳 : *信濃国の伴野(佐久市)を訪れたとき、空也の先例にならって踊念仏を催したが、予想外の人気を集めたため、その後一遍の赴く所では必ず踊念仏が行われて、数多くの庶民がそれに加わるようになる。

異国降伏祈祷1280 = 41歳 : 善光寺から奥州に赴き、帰途平泉・松島を経て武蔵国石浜に着く。

元寇弘安の役1281 = 42歳 :

日蓮没・ ・ ・ 1282 = 43歳 :

鎌倉に入ろうとして幕府に阻止されるも、片瀬浜の地藏堂に踊り屋をつくって布教すると貴賤が群集するなど、一遍の宗教者としての人気はしだいに高くなり、尾張で有徳人の協力を得て行法修行後、

北条時宗没・1284 = **45歳** : 京都に入ると大歓迎を受ける。京内諸寺を巡礼して桂の道場に入ると病臥したが回復、山陰へ旅立ち、

・ ・ ・ ・ ・ 1286 = 46歳 : 各地で布教後、海路四天王寺に戻った。その後も賦算を続け、

・ ・ ・ ・ ・ 1287 = 48歳 : 備後国に行き、

・ ・ ・ ・ ・ 1288 = 49歳 : 故郷に戻った。その後四国の各地を遊行し、

久明親王將軍1289 = 50歳 : 摂津国の和田岬(神戸市)の観音堂(のちの真光寺)で没した。過酷な遊行による栄養失調と考えられる。

その直前、所持していた聖教の一部を書写山に奉納し、残りの書籍類のすべてを焼き捨てたことは広く知られる。